

統幕に日報全データ

南スーダンPKO 防衛相、隠蔽は否定

稲田朋美防衛相は十七日

の衆院予算委員会で、防衛省が当初は廃棄済みとしていた、南スーダン国連平和維持活動（PKO）に派遣されている陸上自衛隊の日報を一転して開示した問題を巡り、「二〇一二年の（）部隊派遣を開始以来、統合幕僚監部で、日報を電子データとして保存していたことを確認した」と述べた。民進党の後藤祐一氏は「組織としてずっと保存している」と指摘し、廃棄して存在しないとして開示しなかった防衛省の対応は組織的な隠蔽だと批判し

た。

稲田氏は、南スーダンで大規模な衝突が発生した昨年七月の日報に関し、ジャーナリストの男性から情報公開法に基づく開示請求を受けた当初は「派遣部隊と（日報の提出先の）中央即応集団司令部で捜し、廃棄されていた」と、不開示に決定した経緯を説明。捜索範囲に日報を保管していた統幕が含まれていなかったことについては「捜し方が不十分だったが、隠す意図はなかった」と釈明した。

後藤氏は「昨年十二月に文書が存在しないことを理由に不開示決定しているが、統幕は全部とってあることを知っていた。この悪意は今までと違う」と指摘。省側が同十六日に行った「日報は廃棄した」との稲田氏への報告についても「いいかげんな説明を、部下が大臣にしていたということではないか」と疑問を投げ掛け、「シビリアンコントロール（文民統制）上、大変な問題だ」と述べた。

稲田氏や防衛省の説明によれば、日報は稲田氏が再捜索を指示した十日後の昨年十二月二十六日に存在を確認。稲田氏が存在したとの再報告を受けたのは一月二十七日で、一部を開示したのは二月七日だった。